

5. 施設の利用状況

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	令和2年度	0	0	3,455	4,145	4,443	4,975	
	令和3年度	4,344	3,742	4,348	5,276	4,374	4,454	
	令和4年度	3,784	3,912	4,933	4,927	3,981	4,423	
	令和5年度	4,748	4,644	5,040	5,401	5,468	5,445	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和2年度	5,769	4,661	3,850	3,901	3,758	4,495	43,452
	令和3年度	5,713	4,503	4,207	3,250	2,705	3,746	50,662
	令和4年度	5,372	4,549	4,039	3,308	3,749	4,686	51,663
	令和5年度	7,143	3,825	3,339	3,233	3,797	4,098	56,181

6. 利用者満足度調査等の実施状況

利用者満足度調査	実施方法	利用者アンケートについては、体育施設利用団体(障がいスポーツ団体)・文化施設利用団体(会議室・訓練室使用団体)・個人利用者等を対象に実施した。
	実施結果	(個人) 「満足」84.3%、「やや満足」10.8%、「どちらともいえない」3.6%、「やや不満」1.2%、「不満」0% (団体) 「満足」82.7%、「やや満足」12.0%、「どちらともいえない」3.7%、「やや不満」1.6%、「不満」0%
利用者等からの主な意見・要望・苦情		左の対応状況
予約システムの導入及び予約方法について 令和5年4月から体育施設及び文化施設の利用について、県の施設予約システムによる対応が可能となった。一方、ネット環境に不慣れな方からの使用方法に関する問い合わせなどがあった。		電話や対面での丁寧な説明や資料提供を継続的に実施。ネット環境に不慣れな方も次第に利用方法が分かるようになり、現時点では苦情・要望は無くなっている。
体育室の照明について 不点灯となっている箇所があり、特に夜間・雨天時には暗く感じるので修繕して欲しい。		体育室のLED照明が不点箇所が半分を超える状況となっており、修繕費用も高額となることから、施設所有者である県において修繕対応する方向で調整をしている。
体育室、卓球室の冷房について 7月から気温が上昇し、体育室、卓球室での活動に支障を来すので、熱中症を予防するためにも冷房運転をして欲しい。		熱中症予防の観点から、県と協議のうえ7月26日から冷房を稼働開始した。
プールのクラウチング型スタート台の設置について 競技大会のスタート練習ができるよう、クラウチング型のスタート台を設置してもらいたい。		県障がい者スポーツ協会の事業(スポーツ庁委託)により、クラウチングスタート台、バックストロークスターティングデバイスを各1台設置することが出来た。
プール監視員の服装及び監視体制について 利用者と監視員の区別がつくよう、また、事故があった際には、速やかに行動に移せるよう統一したユニフォームとすべきではないか。		利用者からのトラブル等の一報を得やすく、また、プール監視業務に適した、監視員として分かりやすい服装(ユニフォーム)を整備した。
プールの冬季開放日の拡大について 12月からのプール改修が始まる前に、プールを利用しておきたいので、開業日を増やしてもらえないか。		12月からプール改修に伴う休止期間となることから、11月の利用日を通常の冬期営業である土曜日、日曜日に加え、木曜日、金曜日も開業し、利用者への便宜を図った。

7. サービス向上に係る主な取組内容

サービス提供体制の強化	<p>1 体育施設及び文化施設の利用について、令和5年4月から県の施設予約システム上で対応出来るようになった。これにより、インターネットからの予約が可能となった。また、大型モニタによる行事や施設利用状況の表示により、利用者への分かりやすい案内を提供できる体制をとることができている。</p> <p>2 行事等各種お知らせやセンターで開催した行事の結果などについて随時ホームページに掲載するなど、タイムリーにきめ細かく情報発信を行った。施設の利用予約状況については、常に最新情報をホームページに掲載し、利用者の利便性を高めている。なお、ホームページのアクセス件数は、29,855件で、対前年度比-1,616件・-5.1%であった。</p> <p>3 センターパンフレットを市町村、特別支援学校、障がい者支援施設、障がいスポーツ団体、障がい関係団体など関係機関やセンター利用登録者など幅広く配布し積極的な広報活動を行った。</p> <p>4 温水プールの更衣室に、緊急用ベルを設置し、利用者の安全確保に取り組んだ。</p>
イベント等の充実	<p>1 障がいのある人もない人も趣味や娯楽等を通じて共に楽しむ空間を提供する「あすびあ倶楽部」(切り絵・折紙・将棋・機織り)を開催し、11回の開催で延べ112名(障がい者は62名)が参加した。</p> <p>2 「あすびあフェスタ2023」を10月29日に開催、延べ2,302人が参加した。 (内容) ①小池原子ども神楽などのオープニングステージ ②ドローンサッカー体験会、eスポーツ体験会 ③キッチンカー・雑貨販売によるふれあいマーケット ④教室体験会(おりがみ、切り絵、機織り、スポーツウェルネス吹き矢、モルック等)</p> <p>3 「夢物語作品展」を4ヶ所の商業施設などで開催、絵画・造形、書道、絵手紙の作品全51点を展示した。</p> <p>4 障がい者の輝く場や交流の場を創出することを目的に、eスポーツの「体験教室」や「体験型講習会」を開催した。</p> <p>(1)ドローンサッカー ①体験教室 11月5日、1月16日、2月13日 ②あすびあフェスタ2023 10月29日 ③練習会 5月27日、6月24日、7月22日、10月7日 11月4日、12月2日、1月6日、2月3日</p> <p>(2)ビデオゲーム ①体験型講習会(障がい者・児とその家族を対象) 6月18日、8月20日、9月17日、11月19日、1月21日 ②体験型講習会(障害者支援施設等において障害福祉サービスに従事する職員等を対象) 2月4日</p>

8. 管理に係る収支の状況

(単位：千円)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収入額(A)		51,418	56,309	58,038	59,017
内 訳	県からの委託料	50,855	54,021	56,081	54,943
	利用料金				
	事業収入		95	67	229
	自主事業収入				
	その他(負担金 等)	563	2,193	1,890	3,845
支出額(B)		51,418	56,309	58,038	59,017
内 訳	人件費	25,689	30,728	30,349	32,864
	維持管理費	17,049	17,847	19,951	19,305
	事業費	8,680	7,734	7,738	6,848
	自主事業費				
	その他				
収支差額(A-B)		0	0	0	0

9. 施設使用料等の収入状況

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	令和2年度	0	0	267	192	220	185	
	令和3年度	169	239	228	247	309	218	
	令和4年度	168	170	197	195	196	174	
	令和5年度	155	162	143	172	195	162	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和2年度	182	192	158	160	209	183	1,948
	令和3年度	184	178	151	200	216	217	2,556
	令和4年度	160	128	144	137	150	165	1,984
	令和5年度	138	115	103	106	154	155	1,760

10. 指定管理者の管理体制

施設管理体制	<p style="text-align: center;"> 所長 ———— 副所長 主事 主事 事務員 事務員 事務員 事務員 事務員 </p> <p>社会福祉法人 大分県社会福祉協議会</p>							
	職員数 (R5.4.1)	正規職員	パート	嘱託	他社から派遣	臨時職員	その他	合計
	4	0	5	0	0	0	9	

11. 適正な管理運営に係る主な取組内容

職員の資質・能力の向上	<p>1 下記の外部研修を通して職員の資質・能力向上に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通救命講習 9月13日 3名、9月19日 1名、9月29日 1名 ・プール衛生管理者研修 8月31日 1名 ・個人情報漏洩防止とセキュリティ強化研修 11月28日、12月26日 計7名 ・人権研修 2月28日、3月13日 計7名 ・消防訓練 10月26日 3名
防災に関する研修・訓練	<p>1 リスクマネジメントの徹底を図るため、「大分県身体障害者福祉センター事故対応マニュアル」に基づく救急訓練を実施し、消防、救急病院等と連携した即応対制の構築に努めている。</p> <p>2 自然災害発生時の対応に向けて、総合社会福祉会館全体で、地震と津波を想定した避難訓練を1回実施した。なお、利用者が迅速に避難することができるよう避難誘導マップを館内に掲示している。</p>
安全対策等	<p>1 プールの安全管理や、施設の日常的な巡回・点検を実施し、事故防止に向けた取組を行っている。また、水泳プール安全管理講習会に毎年職員を派遣し、監視のポイントや水質管理に関する意識向上を図っている。また、換気が困難な男女更衣室については、オゾン発生器を設置し、常時、室内の殺菌・脱臭を行うなど安心・安全な空間づくりに努めている。</p> <p>2 夏場の熱中症対策として、センター内の温度や湿度の管理を徹底するとともに、大型ファン(2台)や気化式大型冷風機(1台)体育室にある換気装置を常時稼働させるなど、快適で安全な施設環境づくりに努めている。</p> <p>3 「大分県身体障害者福祉センター事故対応マニュアル」に基づき、事故発生の未然防止、発生時の措置等をセンター内で共有している。</p> <p>4 プール事故の未然防止に備え、7~8月は、監視員を1名増員し常時2名体制にしたほか、プールサイド4か所にロープ付浮き輪を設置し、安全対策を強化した。</p>